

平成26年度岡山大学大学院社会文化科学研究科博士前期課程【2月募集】入学試験問題

講座	日本・アジア言語文化論
専門科目2	日本語試験

次の文章を読んであとの問に答えなさい。なお解答は解答用紙に記入してください。その際、問題番号を明記し、どの問題に対する解答か、はっきりわかるようにして書きなさい。

問1 波線部ア託 ①ぶきゅうど ②じゅがく ③とま ④むか ⑤庄屋 ⑥識

⑦ひま ⑧懐、について、漢字の部分には読み仮名を、平仮名ルビの部分は漢字で書きなさい。

問2 文章中の A D に、以下の接続詞を、一箇所につき一つずつ、重複しないように入れなさい。

つまり しかし さらに とくに

問3 破線部 a f の意味を分かりやすく説明しなさい。

問4 二重傍線部の地名「能登」「神奈川」「青森」「鹿児島」について、だいたいどのあたりか、自分なりに日本地図を書いて該当箇所を示して説明しなさい（日本語地名の知識の確認問題ですから、地図が上手に書けているかどうかは問いません。だいたいの場所がわかれば結構です。また島々については問題とは関係しないので不要です）。

問5 傍線部①について、具体的に「七種類」をすべて書きなさい。次に漢字のみで書かれている日本の文献を何かひとつ挙げなさい。

問6 傍線部②について、現代日本語の表記において、片仮名はどのような場合に用いられているか、具体例をあげて説明しなさい。

問7 傍線部③について、「メーチニコフ」はなぜ「非常にびっくり」したのか、その理由を説明しなさい。

問8 この文章の筆者は傍線部④の「疑問」について、どのような答えを出しているか、説明しなさい。

問9 傍線部⑤について、具体的にどういふところが「特異な問題」と筆者は考えているか、説明しなさい。

(網野善彦『日本の歴史をよみなおす』14ページ〜16ページによる)